

○ICT活用で確かな学力をつけよう（実践報告）

1
2
3
4

学年・教科

1年 国語

単元名

本とともにだちになるう「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

実践者（所属）

池田 ふみ子（住吉小学校）

活動を始める前に

(1) 準備するもの

コンピュータ（1台）

電子黒板

デジタル教科書

(2) ICT機器やメディアの活用のねらい

文章の読み取りが難しい児童に対して、視覚にうったえる支援をし、理解をうながすこと。

5

指導計画

（8時間扱い）

時	児童の活動	指導上の留意点
1	物語のおおよその内容をつかむ。	デジタル教科書の挿絵だけを画面に映し、登場人物や行動を予想させ、読む意欲につなげる。
2	登場人物の行動を読み取る。	できるかぎり個人の手で読み進めさせるようにするが、読み取りが難しい文は全員で確認できるようにする。
3	「ぼく」と「エルフ」が一緒にしたこと（本時）	デジタル教科書の「筆箱機能」を使用して、画面に3色のラインを書き込み、からに分ける。
4	「ぼく」がしたこと 「エルフ」がしたこと の3つに文を分ける。 好きな場面を紹介しあう。	「だれが何をしたところ」という言い方で紹介させる。
56 78	本の紹介カードを書く。 グループで本を紹介しあう。	題名、登場人物、物語であったこと、の3点は必ず紹介するように伝える。

6

活動の流れ

時間	学習内容・指導上の留意点	児童の活動（利用メディア）
5分	前時を振り返り「ぼく」と「エルフ」が一緒にしたことを読み取ることを伝える。	前時に見た挿絵や、登場人物の行動を思い起こす。
5分	最初の場面を読み、「一緒にしたこと」にラインを引くように伝える。	一人ひとりが最初の場面を読み、指定された色でラインを引く。
20分	デジタル教科書の朗読機能を再生して、「一緒にしたこと」の文にさしかかったら、挙手をしよう伝える。児童の意見が分かれたら詳しく取り上げ、考えを深められるようにする。	音声を聴き、「一緒にしたこと」の文にさしかかったら挙手をする。
10分 5分	デジタル教科書の「筆箱機能」を使用し、画面上の教科書にラインを引く。 ラインを引いた文を、丁寧に視写させる。 次時は「ぼく」がしたこと、「エルフ」がしたことを読み取ることを伝える。	電子黒板の画面で、正しい文にラインが引けたかどうかを確認する。 教科書を見て、文字や単語を抜かさずに「一緒にしたこと」を書き出す。

7

取り組み後の子ども達の変容や成果

デジタル教科書の学習したいページだけを映し、画面に3色のラインを書き込むことで、話題を焦点化しやすくなった。

「何ページの何行目」ではなく、「ここに書いてある」と画面上に指し示すことができるので、個人での読み取りが難しい児童の視線を集中させやすく、短時間でフォローできた。デジタル教科書を使用しなかった単元と比較しても、時間短縮ができた。

8

応用できます！

デジタル教科書ではなく、実際の教科書を実物投影機で映すだけでも効果がありました。

デジタル教科書の朗読機能の音声を聞き、気持ちをこめて音読することや、句読点の間の取り方を意識させることもできました。